



menu

INFORMATION



JICA地球ひろばでは、国際協力に関心のある大学生を対象にした「ジュニア地球案内人プログラム」を実施している。展示やさまざまなイベントを通して開発途上国の現状や世界の課題を体感して学べる地球ひろばには、来館者を案内する「地球案内人」がいる。同プログラムでは、この地球案内人の業務を大学生が約8日間体験し、世界の課題について理解を深め、展示の説明方法などを習得。それをもとに、世界の課題を一般の人に伝えるためのワークショップを作成する。このプログラムは2006年度に開始し、年2回実施しており、今年度（前期）は7月30日～9月13日に、合計21人を受け入れている。9月13日には、参加者が作成したワークショップの発表会が地球ひろばで行われる。

「JICA地球ひろばで「ジュニア地球案内人」が活躍

問 JICA地球ひろば
地球案内デスク
TEL 0120767278

環境問題に高い関心を持つGANGA ZUMBA、THE BOOMのボーカリスト・宮沢和史さんが日本人ブラジル移住100周年の今年、ブラジルを訪問し、その様子を9月27～28日に横浜市のJICA横浜海外移住資料館「TELO45 663 3257」で展示しています。移住者によるアグロフォレストリーや日系移住地を視察している様子の写真、ブラジルツアーのダイジェスト映像が見られます。また、9月15日の無料コンサート「10000 SAMBA」～日移民100周年記念音楽フェスタ～会場 横浜赤レンガパーク
日時 9月15日（月）祝（開場12時、開演13時）
入場料 無料（整理券配布有り）
TEL 03 5436 9600
イスクガレージ）
出演 GANGA ZUMBA / ジルベルト・シル / THE BOOM

「宮沢和史とブラジル」これまでの100年、これから100年」と音楽フェスタ



JICAは青年海外協力隊・シニア海外ボランティアの2008年度秋募集を行います。募集期間中に全国各地で「体験談&説明会」を開催します。また、中南米諸国の日系社会の発展に協力する日系社会青年ボランティア・日系社会シニアボランティアも募集します。詳細はホームページ（http://www.jica.go.jp）をご覧ください。募集期間 10月1日（水）～11月10日（月）
「青年海外協力隊」
募集分野／人数 農林水産、加工保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、スポーツ、計画・行政の8部門、約120職種／約1400人
応募資格 満20歳～39歳 募集締め切り時）の日本国籍を持つ方
「シニア海外ボランティア」
募集分野／人数 計画・行政、公共・公益事業、農林水産、鉱工業、エネルギー、商業、観光、人的資源、保健・医療、社会福祉の9分野／約500人
応募資格 満40歳～69歳 募集締め切り時）の日本国籍を持つ方
問 ボランティア募集選考窓口
TEL 03 3406 9900

青年海外協力隊
シニア海外ボランティア
2008年度秋募集

国際協力への市民の理解と参加を促進するために、政府機関とNGOが共催する日本最大の国際協力イベント「グローバルフェスタ JAPAN2008」が10月に開催されます。JICAも活動紹介をはじめさまざまな企画を予定しています。皆様のお越しをお待ちしています。
日時 10月4日（土）5日（日）10時～17時
会場 日比谷公園 東京都千代田区

「グローバルフェスタ JAPAN2008」10月開催

10月に新JICAの広報誌を創刊

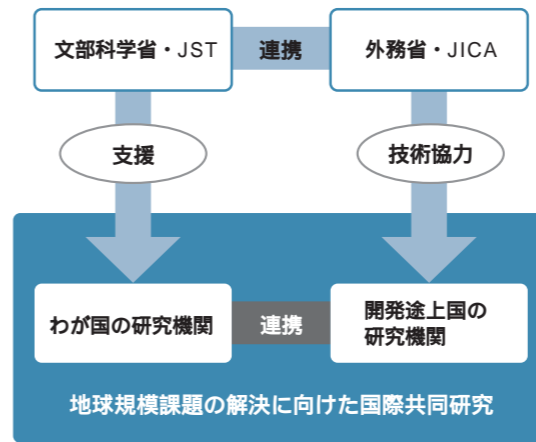
10月の新JICA発足に伴い、新しい月刊広報誌が創刊されます。さまざまな地球規模の課題や開発途上国の現状と、新JICAの取り組みなどを分かりやすく紹介し、より多くの方に読んでいただける広報誌を目指します。なお、現広報誌『monthly JiCa』は9月号をもちまして終了します。05年10月の創刊以来「愛読いただき、誠にありがとうございました」といって、読者の皆さまからたくさん「意見・ご感想をいただき、また」を心よりお礼申し上げます。



menu

PARTNERS

(図)地球規模課題対応国際科学技術協力



独立行政法人
科学技術振興機構

日本の科学技術で 地球規模課題の解決を

最先端の研究を通じ、日本の科学技術イノベーションの源泉となる知識の創出と、研究成果の社会還元に努める独立行政法人科学技術振興機構（JST）、JICAとの連携で、開発途上国と国際共同研究を進めて地球規模課題への対応を探る、新たな取り組みも始まった。

日本の科学技術振興をリード

日本の科学技術振興の中核的な役割を担う科学技術振興機構（JST）。政府の科学技術政策、社会的・経済的ニーズ、科学技術のパラダイム（考え方の枠組み）などに基づいた基礎研究を推進するとともに、大学や研究機関と企業を結び付け、研究成果の技術を実用化につなげる支援を行っている。また、研究者や企業などに向けた情報データベースの提供や、学習支援・人材育成を通じた若年層の科学技術理解増進にも力を入れる。

最近では、京都大学研究チームの研究成果が注目を集めるヒトiPS細胞（人口多能性幹細胞）の作製にかかる研究支援や、名古屋大学と企業が共同で作出した「青色発光ダイオード」の開発支援が知られる。また、宇宙飛行士の毛利衛さんが館長を務める

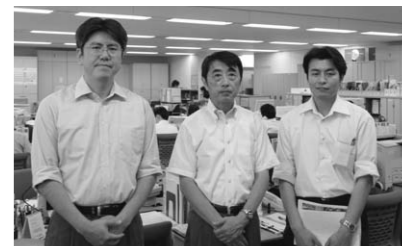
JICAとの連携で
企業の投資を促進

日本科学未来館の運営も担っている。

国際的な研究交流も推進するJSTは、欧米諸国や中国・インドといった新興国を中心に、環境・エネルギーやナノテクノロジー、情報通信などをテーマとした研究者の派遣・招聘、セミナーの開催などを支援している。また、2008年度から始まった枠組みとして特に注目されるのが、JICAとの連携で開発途上国と国際共同研究を進める「地球規模課題対応国際科学技術協力」だ。これは、3～5年間、日本側研究機関の研究支援をJSTが行い、これと連携し、技術協力プロジェクトとして開発途上国側の研究をJICAが支援することで、日本の科学技術を生かした共同研究を実施するもの（図参照）。環境・エネルギー、防災、感染症など、特に途上国が脆弱性を抱え、また日本にとってもその研究成果が有益となる地球規模課題に関する研究が対象だ。

この事業を担当する井上孝太郎・上席フェローは、「地球規模の課題を解決するには、途上国と共同研究を推進することが不可欠で、日本の科学技術を生かした国際貢献として意義深い。また、将来国際的に活躍できる研究開発人材の育成、共通する技術基盤の形成という点で双方に大きなメリットがある。JICAとの連携で、日本のトップレベルの研究を、途上国の課題、地球規模の課題の解決に生かし、現地の研究者や研究機関の自立と技術の定着につなげていきたい」と、この新たな取り組みに意欲を見せている。

独立行政法人科学技術振興機構
〒102-8666 東京都千代田区四番町5-3
サイエンスプラザ
TEL: 03-5214-8401 FAX: 03-5214-8400
URL: http://www.jst.go.jp



「JICAとの連携は、JSTにとっても画期的なこと」と話す井上孝太郎上席フェロー（中央）、地球規模課題国際協力室の桑田真宏調査役（左）、寺下大地主査（右）